

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 郭 家志

	主査	教授	櫻木	範明
審査担当者	副査	教授	秋田	弘俊
	副査	教授	山下	啓子
	副査	教授	玉腰	暁子

学 位 論 文 題 名

日本人女性におけるエストロゲン受容体陽性乳癌の罹患リスク予測モデルの構築
(Establishment of risk prediction models for estrogen receptor-positive breast cancer in Japanese women)

本学位論文は日本人女性において、乳癌サブタイプ毎の罹患数の割合の年次推移について、次に、エストロゲン受容体 (ER) 陽性乳癌の罹患リスク予測モデルの構築について報告したものである。

審査にあたり、副査の玉腰暁子教授より、対照群の選択についてと、作製したリスクモデルの先行研究との比較に関して質問があった。申請者は、対照群の選択基準および理由、本研究のリスクモデルの特長を説明した。副査の秋田弘俊教授より、閉経前女性の乳癌罹患リスク予測モデルについてと、遺伝子多型を選択した根拠および本研究の成果を今後の研究にどのように繋げていくのかについて質問があった。申請者は、これまで閉経前の乳癌罹患リスク予測モデルは報告されていないこと、本研究の遺伝子多型の選択基準および本研究を踏まえて今後、コホート研究を行う必要性について回答した。主査の櫻木範明教授より、本研究で作製したリスク予測モデルの実用性、および対照群として 40～44 歳の健康な女性を除外したことについて質問があった。申請者は、本研究で作製したリスク予測モデルの限界および今後の研究の実施について、また、40～44 歳の健康な女性を検討することについて回答した。最後に、副査の山下啓子教授より、TOX3 遺伝子の乳癌発症との関連について、および癌研究でビタミンDについての知見について質問された。申請者は、これまでの報告に基づき、TOX3 遺伝子の機能および乳癌罹患リスクとの関連、ビタミンDの抗癌効果のメカニズムについて回答した。

本論文は、日本人女性において ER 陽性乳癌の劇的な増加を確認し、ER 陽性乳癌の危険因子の同定と高危険群女性の選別のための罹患リスク予測モデルを構築したものであり、発症メカニズムの解明と発症予防に繋がることが期待される。審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。